

# —教育と人生を学ぶ— ⑨



NPO法人くだけけ会代表  
和田重良

1948年小田原市生まれ  
くだけけ生活舎での共同生活  
(人生科や農作業)をとおして、  
青少年や家庭の生活にさまざまな  
メッセージを送っている。

## 「魔法の薬」ってありますか？

## 百回やってみる

### 一回目と百回目の差

同じことをたくさん何度もすることは一見バカバカしいことのように思ってしまうかもしれません。ところがやってみればすぐに分ることがあります。それは一回目と百回目は差があるということです。それは一回それは世界が拡がるとか、深まるとか言うことな



南足柄あんしん講座

のです。

ぼくは先日65才になりました。そうすると二万三千七百回以上朝を迎えていることになりました。呼吸を一日に何回くり返しているかは分かりませんが、ものすごい回数の呼吸をしていることになりました。ところが、バクゼンと何万回朝を迎えても、数え切れないほどの回数の呼吸をくり返していたとして

も、一向に世界は拡がらず、人生は深まることありません。

そこで、毎朝の「行」や「キチンとした呼吸」を意識的にくり返すと、まったく別の意味を持つことになるのです。

ぼくも最近数年間「百日」を目標にはじめた事があり、気がつけば千何百日目にもなっています。

また、無意識でして来たことを意識的にやるために記録をつけてみるというのをしてみると、とても大切なことを発見することができるのです。

### 何にもならないはずが…

子どもがよく言うセリフに「こんなことして何になるのか」と言うことがあります。不登校の子やひきこもっている大人でも言います。そう言いたくなるようなバカげた勉強や仕事の仕方というものもあります。しかし、目的をハッキリとさせないからバカバカしく終ってしまうのです。

本当はバカバカしい勉強や仕事というものはありません。

それは、何にもならない…ということがないので、どんな勉強も「人生の中身や目的に直結している

のです。それは「自分」のためになっっているのです。何に役立つかわからないのにやるのはバカバカしいことだと思つて、一歩が出ません。行く先(ゴール・到達点)がわからない努力なんかできないと思うのです。

ところが、一歩を踏み出すと、何にもならないはずが次々といろいろなことに気づいて行きます。

やらなきゃわからないし、やっているとうちにどんどんわかっていく。おまけに「やる気」さえ起こってくるのです。

### 一日一回、一つ一つ

一つ一つ、一回一回、もう一歩前へ、一つ一つを百回やってみよう…と思つて下さい。

決して結果を焦らずに一つ一つやってみて下さい。百回やる頃に何も見えて来なくてもあきらめずやってみて下さい。

また次の百回をやってみればいいのです。

勉強や仕事なら必ず結果が見えて来ます。ところが人生のことは結果は見えて来ません。結果なんてないので、どこまでもくり返して行くことに意味があり、それが人生の中身なんです。

そのうち、自分がどういう理由で生まれて来たのか受けとれて来ます。

### 「わかる」と「受けとる」の差

人間の頭は「わかる」と終点のような気がしてしまふような仕組みになっています。

ですから、教育の中では「わかる」ということを大問題とするわけです。

人間の頭は「わかった」ような気がしていることが多く、この真実や真相は受けとり損なっていることが多くあるのです。

ですから、次々と間違つた選択を正しいと思つてしてしまうのです。

自分の利益になること、人の役に立つことそんな判断をする時に正反対を選択してしまうことがあるのです。

人のためになることをするのは損だ、と思つたり、人をやつつけてでも自分の利益を守ることは得だと思つてしまいます。

人を押しつけて出世することが人生最大の幸福だと思つると、自分の実力相応の仕事や役割をして行けるのが幸福だと思つるとではずいぶん違つてしま

ます。

そこで、ぼくらが実践できる「しあわせの道」は、「わかる」ことを終点とせず、コツコツと百回でも二百回でも実行していくうちに自然とこの真実相が「受けとれる」ようにすることだと思つています。

来年度(四月号)から、このページには家庭の生活と教育(家庭教育)を「新しい悦びの時代へ向け」というタイトルにしてお送り致します。

### 2月のキーワード

#### 人生の宝庫を開く〈三つの鍵〉

- ・ケチな根性はいけない
- ・イヤなことはさけないで
- ・ヨイことはする

百回くり返しているうちに世界が拡がり、意味が深まるのです。やってみたらわかるのです

